

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4771000066		
法人名	社会福祉法人 千寿会		
事業所名	グループホーム寿		
所在地	沖縄県糸満市字真栄里323番地		
自己評価作成日	令和2年 10月26日	評価結果市町村受理日	令和3年 2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon:true&JigyosyoCd=4771000066-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和2年 11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな小高い丘に位置し、9名の利用者様と共用型指定認知症対応型通所介護の利用者3名様で馴染みやすい家庭的な雰囲気の中で過ごしています。山羊や犬の世話、食事作りの手伝い、洗濯物たたみ等個人に応じた力を発揮できる場やピアノ演奏や琉球舞踊等の趣味を生かした活動を通し、張りのある生活が送れるよう支援しています。又、健康や体力維持、気分転換を図るため体操・レクレーションの時間を設け、新聞を紹介するのも日課となっています。食事は3食ともホームで調理し、美味しいにおいは利用者の五感の刺激材料です。そしていつでも暖かい料理を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本事業所の理念は、家庭的な環境作りから地域の一員としての地域交流までの7つの項目があり、特に、「個別処遇の徹底、人間愛の心、個人の尊重、寝たきりにしない・させない工夫の強化、笑顔あふれる一日を！」をもとに実践に繋げている。具体的には、音楽の好きな方へはホールでのピアノ演奏を支援したり、書くことの好きな方へは日記の継続、散歩の好きな方へは屋外階段や庭の散歩等、利用者各々に添った支援が実施されている。食事は3食事業所で職員が作り、自前の畑で採れた旬の野菜や差し入れの食材も活用して献立を工夫し、季節感の感じられる家庭的な食事の提供に努めている。勤務体制については職員の希望を尊重し、子育て中の職員の希望や日勤希望、夜勤希望等を踏まえ、職員の同意も得ながら対応している。毎月の勤務表は勤務希望を聞き作成している。職員の定期健診やインフルエンザワクチン接種も事業所の費用負担とし、職員が働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I.理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の勤務表に理念を明記、廊下の掲示版に事業所理念と職員個々の理念を掲示し、日々のケアの中で実践に繋げている。特に日頃から家族と協力して入居者の個性を尊重しつつ、家庭の延長線上での自立を心がけています。	本事業所の理念は、家庭的な環境作りから地域の一人としての地域交流までの7つの項目があり、特に、「個別処遇の徹底、人間愛の心、個人の尊重、寝たきりにしない・させない工夫の強化、笑顔あふれる一日を！」をもとに、実践に繋げている。具体的には、音楽の好きな利用者はホールでのピアノ演奏、書くこと好きな方へは日記の継続、散歩の好きな方へは屋外階段や庭の散歩等、利用者各々に添った支援が実施されている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	例年、近隣幼稚園児との交流や地域行事である喜屋武ハーリーへ出場、糸満大綱引き見物、そして自治会の定期清掃活動へ参加できるよう心掛けていますが、今年はコロナ禍で出席出来ていません。	地域とのつきあいは、自治会の毎月の定期的な掃除活動に職員が参加し、地域の方と馴染める機会としている。昨年は認知症カフェも実施し、地域の道ジュネーやハーリー見物にも出かけている。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で殆どの行事が中止となる中、法人のデイサービス送迎時を活用し、利用者も一緒に同行して交流等を図っている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護学生実習受け入れ(今年はコロナ禍で中学生の福祉体験学習はありません)現場での実習教育をサポートし認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に活かせるよう努力しています。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、運営推進会議を開催しています。入居者・家族(輪番)、地域連絡員、行政担当者、社会福祉協議会担当者、訪問看護師の参加があります。会議では入居者状況、現状を報告し、そこで出た意見を反映しています。	運営推進会議については、利用者や家族、行政職員、知見者として社協職員や訪問看護、地域代表等が参加し、定期的に行われている。4月と8月の会議は、コロナの影響により書面会議となっており、委員から意見を聴取して議事録も作成されている。議事録は丁寧に記録され、新型コロナ予防対策等について、委員から意見等があり、「新型コロナウイルス感染症対応マニュアル」が作成され、会議の場で情報提供をしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市担当職員の参加があり、意見・アドバイスを頂いている。施設長は市地域密着型運営推進委員として協力関係を築くよう努めています。	市との連携については、担当課職員が運営推進会議に参加し、利用者が入院した際のアドバイスやコロナに関する厚生労働省のマニュアル情報等の提供がなされている。事業所は、運営推進会議の案内を担当課へ送付する際、意見書も同封し対応している。福祉課のケースワーカーとも連携している。研修等については、メール等で情報を得ており、協力関係を築くよう取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・行動制限を行わないことが重要なのか研修を行い、身体拘束について理解を深めるとともに、一切の身体拘束をしないよう周知徹底しています。入居者様に対する言葉のかけ方も気を付けるようにしています。	身体拘束をしないケアについては、指針に基づき運営推進会議において身体的拘束等適正化対策検討委員会が開催され、利用者の状況や身体拘束等について話し合い、会議録も作成されている。定期的な研修も実施し、職員間においては、ケース会議の中で話し合われている。外に出たがる等、ソワソワする利用者について、訪問看護のアドバイスがあり、受診による処方薬変更後は状態が改善されている。検討委員会の議事録に、委員からの意見等の記録の追加も期待したい。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に高い意識が持てるよう、定期的に研修を一緒に行っています。日ごろから職員間で注意喚起しながら支援を行っています。	虐待防止については、高齢者虐待に関する理解を深めるために、不適切なケアやスピーチロック等の勉強会が行われている。職員は、事業所の日々のケアにおいて、丁寧すぎる言葉づかいや子ども相手のような話しかけをしない等、皆で気配りしながら対応し、虐待のない支援に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度については学ぶ機会が持てませんでした。今後の課題で勉強会を開催したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前に利用契約書や重要事項説明書の十分な説明を行っています。利用開始にあたり不安・疑問などをお聞きしご理解を頂いています。特に利用料金事項は分かりやすく説明しています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、運営推進会議、担当者会議等の場において、意見や要望を求めそれらを運営に反映させています。又、日頃より生活用品の補充や本人さんの体調、病院受診の件等、家族との連携を密にし、家族が話しやすい関係作りに努めています。	利用者、家族等の意見については、利用者からの「新聞を読んで聞かせてほしい」との意向に添い、5、6年前から読み聞かせを継続している。家族からは「歩く練習をさせてほしい」、「食事の稲荷寿司の皮が硬いので、もう少し軟らかくしてほしい」等の意見があり、個別での歩行支援や調理の工夫等の改善を行っている。家族から利用者の受診結果の報告を受け、高齢者の食事摂取基準の勉強会を行っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも意見を言える雰囲気や関係に努め、提案などについては、極力実現できるようにしています。毎月の職員ミーティングでは職員からの意見を出す機会となっています。	職員意見については、毎月の職員ミーティングで利用者支援について話し合う中で聞いている。夕方頃に不穏になる利用者への対応として、夜勤者の補助が必要であるとの意見から夕食を15分早めることで、夕食担当者も利用者支援に加わり、対応がスムーズになっている。また、利用者同士の交流を図ることを目的に、テーブルの配置を替える等、職員意見を運営に反映させている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の個性、特技、努力や実績、家族状況を把握し、やりがいを持てるよう努力しています。又、勤務環境を少しでも良くするように努めています。	就業環境として、勤務体制については職員の希望に添って対応している。日勤希望の職員や夜勤希望、日曜日に休みがほしい子育て中の職員等、各々の希望を踏まえ、職員の同意も得ながら対応している。毎月の勤務は、次月の休みや勤務希望を聞き作成している。職員の定期健診(年2回)やインフルエンザワクチン接種も事業所の費用負担とし、職員が働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修(リモート研修を含む)の確保や施設内勉強会を実施し、資質向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今回はコロナ禍もあり交流する機会がありませんでした。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集を行い本人にあったサービスを提供できるようにしています。本人の要望等を細やかに傾聴、言語以外のコミュニケーションも大事にし、安心していただける信頼関係作りに努めています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に家族が困っていることや意向を確認する等、お話をすることで良好な関係作りに努めている。また、面会はいつでもできることを伝えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の状況を把握し、必要な支援をしています。入居が決まった時は、他のサービス事業所から情報をもらうようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活させて頂くという姿勢を大事にし、時には職員が頼ったり、手伝ってもらう等、家庭的な関係作りをしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診、必要物品の補充など日頃から連絡を取り、家族とのコミュニケーションが多くなるよう働きかけています。ケアプランの共同作成等、共に支えていく関係に努めています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が訪れ、自室内で一緒に昼食を楽しむ入居者様、旧盆、正月には帰宅する入居者様、職員と馴染みの場所をドライブする等、家族と協力し支援しています。	馴染みの関係継続については、家族が利用者の友人に連絡したことで、友人が事業所を来訪し、持参した弁当を居室で一緒に食べながら一時を過ごしたりしている。法人のデイサービス利用者の送迎時に、ゆかりのある地域の利用者も一緒に出かけ、近隣の学校や糸満市場等をドライブしながら、車中で思い出を語る等の支援をしている。コロナ禍前は、馴染みの場所へランチを食べに出かけることも実施している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人、面倒見の良い人等、入居者個々の性格を把握し支えあえるような支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所先に情報を提供、家族と電話で連絡を取り合い、相談支援に努めています。以前入居されていたご家族が定期的に挨拶に来られます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスで本人・家族の意向を確認。意思表示が困難な利用者は普段の生活の中で、表出される言動や行動から、その思いをくみ取って支援するよう努めています。	意向等の把握については、普段の会話や利用者の行動の中から把握し、その思いに添って対応できるよう努めている。例えば、外に行きたがるしぐさの利用者の場合、何かを食べたい時の行動と理解し、家族が準備した食べ物等を提供している。また、コーラが好きな利用者には、家族が持参したコーラを提供したり、食事中、椅子に座らずソワソワする場合、「歩きたい、歩こうね」と声かけしながらトイレへ案内するなど支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入前のアセスメントや日頃からのコミュニケーションの中からこれまでの生活史や生活環境の把握に努め、支援に反映させています。また、新しく得た情報は随時追加して共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送り、介護日誌の確認、職員連絡ノートで情報を共有しています。毎朝のバイタル測定、必要時の再測定、午後の体温測定等で、体調の把握に努め、生活表を作成し、一人ひとりの状況を把握するよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向をお聞きし、趣味・役割を活かした介護計画を心掛けています。そのほか、課題や検討が必要な時には、ミーティングで職員全員の意見、気づきを出し合い、プランの見直しに活かしている。	介護計画については、長期目標は6か月、短期は3か月として、3か月目は職員間で見直し、6か月目は本人及び家族も参加して、サービス担当者会議を開き、意向の確認や支援内容の説明等をしている。「事業所でも自分のできることは何でもやる」との利用者の意向を踏まえ、「自分の役割を持つ」の目標を設定し、野菜のつくりいや洗濯物たたみの支援が行われている。また、退院後に介護計画の随時の見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・病院受診の際の記録ノート・職員間の連絡ノートを設け、情報を共有しながらプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	旧盆や正月の帰宅、お墓参り・外食等、希望に即した支援が行えるよう努力しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族・友人の面会や一時帰宅、馴染みの場所へのドライブ等本人との関係性が途絶えることがないよう支援に努めています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族が希望するかかりつけ医を継続受診。事業所からの情報提供を行い、必要時は職員も同席し、医師に状況を説明するなど、適切な治療を受けられるように支援しています。	利用者7名が馴染みのかかりつけ医を継続受診し、2名は、病院の移転に伴い希望するかかりつけ医に変更している。月2回の訪問看護を全員が利用している。定期や他科受診は家族対応を基本とし、必要時に同行している。受診時の情報交換は主に口頭で行い、家族からの報告や「医療ノート」等で、利用者の診療情報を共有している。インフルエンザの予防接種や健康診査も家族対応で受けている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で把握した情報や気づきは些細なことでも職員間で共有。月2回の訪問看護師に報告・相談し受診やケアに繋げています。24時間オンコール体制で緊急時は夜間でも相談することができます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院の際の情報提供や病院側のカンファレンスに参加し、本人が適切な治療を受け、早期退院や退院後に安心した生活が送れるよう、病院関係者との関係作りに努めています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際の対応の説明を行い、本人や家族の希望する支援を行います。	重度化や終末期に向けた方針については、契約時や必要時に家族等に説明している。訪問看護との24時間オンコール体制があり、状態変化に応じてサービス担当者会議等でも話し合い、家族の希望の把握に努め、意向に添う支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の際の対応について地域消防の方の研修を実施。応急対応・初期対応は不安があるという職員がいます。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っています。地域の協力体制がないので、普段から関わりが持てるように努力していきます。	屋間想定を年2回実施している。訓練は、実施要項に沿って行われ、諸書類も整備されている。実施報告書に「居室にスロープがあれば、安心」等の記載があり、検討に繋げている。非常時の連絡網を設定し、民生委員等に地域住民としての協力依頼をしている。非常時に備えて水タンクや自家発電の設備があり、利用者と職員の約3日分を備蓄し、リスト表の点検もしている。	夜間想定を含めた年2回の訓練の実施、及び1週間分程度の備蓄の整備が望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に言葉使いに関しては、なれ合いになりがちなので、初心に戻り敬語を使うよう徹底しています。また、トイレ介助の際本人のプライドを損ねないような配慮をしています。	職員は利用者の尊厳を守り、言葉遣いの大事さを意識しながら、「～させていただきます。」という気持ちで支援するよう努めている。不適切なケアについて勉強会で周知を図り、気になる言動については管理者が注意している。利用者の生活習慣や趣味等を把握し、継続できるよう支援している。職員は守秘義務について周知し、利用者のプライバシーの保護に配慮しながら支援している。個人情報保護方針や利用目的が掲示されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表せるよう、選択肢を設けたり、視覚に訴え自己決定ができるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	園周辺の散歩、山羊の世話、ピアノを演奏など入居者さんのペースを大切にしています。職員が業務に追われ、希望に添えないこともあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的なボランティアによる整髪支援、特別な日、行事等では化粧や口紅を弾くなどおしゃれを楽しめるよう支援しています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テレビの料理番組を見て、好物を伺ったり、野菜繻いをしながら「これはこんなふう料理したほうが良いよ」等、利用者さんのアドバイスもあります。季節を感じられる食事を心がけています。	食事は3食事業所で職員が作っている。昼食担当の調理専門職員を中心に献立を工夫し、自前の畑で採れた旬の野菜や差し入れの食材も活用して季節感の感じられる家庭的な食事の提供に努めている。利用者の嗜好を把握し、芋や三枚肉が好きな方の要望に対応している。利用者は、野菜の下ごしらえやフーチバー、ジュシー等のおいしい作り方の話、ムーチャー作り等を一緒に行っている。母の日や敬老会は、馴染みの店の仕出し弁当で食事を楽しむ機会としている。職員も利用者と一緒に同じ食事を摂っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を把握し、あら刻み・とろみ・ミキサー食を提供。水分摂取量が不足しないよう声掛け等を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、自力で出来ない方は残食を除去し、ガーゼでふき取りをしています。夕食後は義歯を洗浄しています。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用して、個々に合わせ排泄パターンに応じた支援をしている。出来るだけトイレで排泄し、気持ちよく過ごして頂けるよう支援しています。	利用者個々の排泄パターンは、排泄チェック表で把握し、自立している4名の利用者をはじめ、声かけのタイミングを工夫し、日中は全利用者にトイレでの排泄支援を行っている。日中は、全利用者に気持ちよく過ごせる下着を着用してもらい、高齢の利用者には生活リズムを重視した支援、車イスの方には勉強会で学んだ移乗法を踏まえた支援を心がけている。失敗時は、「大丈夫よ」と本人が気にしないようにさりげない対応に努めている。夜間は、2名の方がポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解し、排泄チェック表や職員間の申し送り等で個々の排泄状況を把握。飲食物(繊維の多い食物、牛乳、ヨーグルト等)の工夫や運動への働きかけを行っています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時のこだわり等を把握しおしゃべりをしながら、気持ちよい入浴になるよう心掛けています。入浴時間は午前で、入居者個々の希望やタイミングに合わせられないのが現状です。	入浴は、1日おきの週3回午前中を基本として支援している。黒板の入浴予定表で当日利用者に確認をし、脱衣室ではタオルを掛ける等羞恥心にも配慮しながら支援している。拒否がある場合は、時間を置いて声かけしたり、脱衣室からリビングに戻って根気よく案内し直す等工夫している。利用者はラジオを聞いたり、職員と会話しながら入浴している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々に違うので、習慣に合わせて休んで頂いています。ゆっくり読書する方、日記をつける方等。気持ちよく休まれるよう寝具や気温に配慮しています。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々の薬の内容を把握できるように努め、薬に変更があった場合は、職員は症状の変化、経過をしっかりと観察し支援しています。服薬時も本人が飲み込むまで確認し、飲み忘れがないようにしています。	職員は「薬・疾患表」を作成して、利用者一人ひとりの服薬状況を把握し、薬の勉強会等も実施して情報共有に努めている。服薬や眼薬支援マニュアル等を整備している。保健委員を中心に朝・昼・夕等の配薬をし、与薬の担当、服薬後の確認方法等を職員で周知し、配薬や誤薬の防止に取り組んでいる。服薬支援マニュアルに、誤薬発生時の対応、再発防止のための検討会議の実施、会議録の共有等についても追記することを期待したい。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ピアノが得意な方、琉舞が好きな方、野菜織い・塗り絵が好き、特別な日は飲酒を楽しみにしている入居者さん等、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援しています。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お墓詣りへ職員と出かけ外食を楽しまれる入居者さん、家族の協力を得ながら帰宅する入居者さん、友人と出かけられる入居者さん等、本人が行きたいところへ行けるよう支援しています。	日頃は、敷地内の散歩や外階段の上り下りを支援し、初詣や那覇マラソンの応援等の外出を支援している。車イスの利用者も散歩等で外気浴をし、畑周辺でヤギの餌用の草刈りをする利用者もいる。例年は、大綱引きやハーリー、十五夜等の地域行事の見物、ひ孫の運動会や保育園のお遊戯会、買物等に出かけている。コロナ禍の現在は、デイサービスの送迎時を活用してドライブをしたり、室内でのボール遊び等で利用者が気分転換を図れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者さんは家族が金銭管理をしています。1名は週千円程度の嗜好品を職員に依頼し購入しています。(コロナ禍で本人自身が買い物することは控えています。)		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員へ依頼し家族へ電話をする方、また、友人へ手紙を出すことができるよう支援しました。家族や知人からの電話の取次ぎは自由にできるようにしています。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前の四季折々の花、障害物のない廊下、入居者の集うホールは風通しがよく明るい。ホールにはピアノがあり入居者がピアノ演奏を行い、曲に合わせてみんなで歌う等、居心地よく過ごせるよう工夫しています。	犬小屋やヤギ小屋から鳴き声が聞こえてくるような自然に囲まれた事業所の内外は、ゆったりとした雰囲気四季の移り変わりが感じられる環境になっている。玄関内には、写真付きの職員一覧が掲示されている。イベント等にも使える広い居間には、テーブルやソファ、ピアノ、加湿器等が設置され、適度に換気を行い、居心地よく過ごせるよう配慮している。利用者は、生け花やボール遊び、洗濯物たたみなどいろいろな活動をし、ソファの気に入った席で数名で談笑することもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭やホールに椅子やソファを置き、一人になられたり、気の合う方とおしゃべりを楽しめるよう支援しています。職員は仲の良い関係を把握しており、話しやすい席の配慮もしています。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたタンスやテレビ、鏡台、たたみを敷く等、また、家族の写真やお気に入りの写真を飾り、入居者さんが居心地よく過ごせるよう支援しています。	居室には、ベッドやエアコン等が設置され、利用者は馴染みのこたつ用テーブルや鏡台、ハンガーラック、テレビ、本等を持ち込んでいる。畳を置いて自分なりの部屋づくりをしている利用者もあり、自宅の部屋のように過ごせる居室となっている。利用者の動線に合わせて手すりを追加設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力量に応じて安全に自立した生活が送れるよう家具の配置や動線に合わせた手すりを設置しています。又、入居者が目につきやすいところへ時計・カレンダーを設置しています。		